文教大学･講演会出席者からの質問への回答

肥田舜太郎

質問１）日本が広島・長崎の原爆の被害を受け止め理解した時点で、核を放棄していれば福島第一原発事故のような全世界の問題とはならなかったのではないか？

回答：その通りだと思います。アメリカの核の傘に入らず、核兵器の持ち込みも許さず、原発も輸入しないし、原子力発電にも手をつけないでいれば、たとえ、大震災や大洪水があったとしても、放射線物質は国内にまったくないのですから、国民に核からの放射線の被害を与えることはなかったはずです。

質問２）日本はまだ独立しているとは言えない状況なのに、米軍に思いやり予算なんてこと言って未だにお金を得ているアメリカを信用しすぎていいのだろうか？

回答：今の日米関係は対等な友好関係ではなく、日本がアメリカの求める軍事要求を受諾せざるを得ない隷属的な軍事同盟に呪縛され、戦後67年を経た現在では、国際的にも不自然極まりない状態です。
軍事同盟は廃棄し、対等な友好条約を結んで平和で友好な関係にすべきです。

質問３）被ばくされた方たちの映像が、日本人の作品には少なかったので(今回の映画は多く映し出しており)驚きました。どんな気持ちで映されたのでしょうか？(肥田先生はどう思われますか？)

回答：被爆者は原子爆弾に被爆したことを社会に隠して生きてきた者が多く、公に被爆体験を話したり、映画に出演することは求められても応じないのが普通でした。「核の傷」に映っている被爆者は、私が長く診てきた患者さんで、被曝の真相をできるだけ多くの人たちに知られて、核兵器の残虐性をひろめ、核兵器廃絶の世論を高めることに貢献するのが被爆者の人類への務めであると教えてきた人たちです。
ですから、マーク監督の求めに応じて撮影を承諾してくれたのです。

質問４）60 年以上も原爆の怖さを忘れずに、人々に伝え続けるのはどれだけ大変なことだろう、、、。先生が生きて伝えることがどれだけ私たちの世代が真剣に受け止め実行できるのか？一日一秒も原爆を忘れられない先生、私たちは原発も原爆もない世界を作れるのでしょうか？私たちはとてもこわいです、負けてしまいそうです。未来は残されているのでしょうか？

回答：原発や原爆を作り、保持するものも人間なら、それを止め、地球上からなくすのも人間の仕事です。出来そうもない難しいことと、先ず思わないで、たくさんの「普通のひと」が無くそうと思い立って、小さな力を一人二人と、集め、根気よく時間をかけて運動を持続すれば、必ず目的は達成できると確信しています。
原爆が爆発してから67年。日本の被爆者や国民の代表が根気よく被曝の実相を訴えてきたため、核兵器廃絶に賛成する加盟国が増え、今では国連総会で優に過半数を超えるに至っています。

核兵器を保有する大国が拒否権という不当な権利を利用して実現を阻んでいますが、核兵器保有を禁止する条約を締結しようという動きが国際的に非常に強くなってきています。

世界の草の根の力は確実に前進しています。一人ひとりも小さな力を集めることに確信と勇気をもってください。負ければ人類は核によって滅ぼされるし、生き延びるには核を抑え込んで、人間の世界から放逐しなければならないのです。

質問５）「私たちが出来ることは、自らの命の担い手であることを自覚し、とにかく体に悪いことをしないことだ。」と、はじめ映画で観たときは、拍子抜けしてしまいました。私たちに出来ることはそんな事だけなのか？自己責任的ではないのか？と正直思いました。しかし肥田先生の言葉を聞き、肥田先生や被ばく者の方が背負わされた理不尽さや憤り、やりきれなさに触れ、自らの命に自覚的になれという、その言葉の計り知れない重みを感じました。

回答：自分の命の大切さに気づき、大事にすることの意義に目覚めた瞬間から、人は、生まれ変わったように積極的に生きるように変わります。私の言葉に重みを感じて下さったのなら、今までにあなたが自分の命の価値を世間の人に認めてもらうため、果たしてどんな努力をされたのか、振り返ってみてください。目立たない何かの行為を、黙々と、どのくらい続けてこられたのでしょう。私たち、優れた能力を持たない草の根の民は同じ行為を黙々と続けることを通じて、自らの存在とその価値を他人にも、自分自らにも意識づけることができます。

ダメだとか、できそうもないとか、誰もがまだうちに勝手に決めないでください。ダメと思ったら初めに帰って、同じことを繰り返しましょう。果てしない繰り返しの先に花は咲くものです。

質問６）広島・長崎であった構造は、形ばかりの民主国家を作り上げた現在の日本社会においても何ら変わっていないようですが、広島・長崎での原爆と、今回の原発事故を同じように語ることの危うさ、一緒に語ってしまってはいけない点はありますか？

回答：原爆も原発も、加害者の立場で考えるのと、いつも被害者にしかならない草の根の民草の立場で考えるのでは、結論は180度変わります。被害者にしかならない草の根の民草にとっては原爆も原発も同じく命に害を与える放射線が共通項で、同じ危険物、毒物以外の何物でもありません。

両方を同じように語ることに危うさを感じるのは、あなたがその瞬間に原爆や原発を使用する者の立場にたって考えていることに気づいてください。その場合、そういう風に考えると、原爆と原発はある
条件のもとでは人間社会にとって有用であり得るという論旨にからめとられる危険を抱いてしまうことを忘れないように。

放射線は有用か、どうかという問題ではなく、命を奪われるかどうかの命がけの問題です。原爆使用者も原子力発電の当事者も、このことが課題になることを恐れたからこそ、内部被曝の危険性を全力をあげて隠し通してきたのですから。